

ローカル・プロジェクト実習のテーマと履修方法

<履修方法>

- (1) ローカル・プロジェクト実習 C「佐原のまちづくりを体験する（関谷昇先生）」の受講希望者は、関谷先生に直接メールで連絡すること。詳細は別紙のとおり。
登録先：関谷 昇（千葉大学大学院社会科学研究院教授）
noboru@faculty.chiba-u.jp
- (2) そのほかのローカル・プロジェクト実習 A～D の履修方法
 - I. Moodle の「ローカル・プロジェクト実習 A～D（2019-G15U31901）」に登録する。登録キーは「2019」。
 - II. 履修登録アンケートに答える。
 - III. 後日、各プロジェクトについて詳細ガイダンス、初回授業等の連絡を回すので、希望する講義に出席する。

<テーマ>

ローカル・プロジェクト実習 A（サテキャンコース）

テーマ：サテキャンに「もの・ひと・こと」50 年史資料館をつくる

担当：鈴木 雅之（千葉大学国際教養学部 准教授）

時期：第 1～4 ターム 集中

開講日は受講者の日程調整によって決める

人数制限：5 名程度

その他：詳しくは別紙を参照。また、別途ガイダンスを実施（Moodle にて通知）

ローカル・プロジェクト実習 B（西千葉・松戸コース）

テーマ：地産地消の家づくりのイベントをつくる

担当：田島 翔太（千葉大学大学院工学研究院特任助教）

時期：第 1～3 ターム 集中

4 月 26 日 13：30～ 東松戸にて初回会議有り（参加は任意）

人数制限：5 名

その他：詳しくは別紙を参照。また、別途ガイダンスを実施（Moodle にて通知）

ローカル・プロジェクト実習 C（佐原コース）

テーマ：佐原のまちづくりを体験する

担当：関谷 昇（千葉大学大学院社会科学研究院教授）

時期：第3ターム 集中（8月中旬に2～3日間で実施予定・宿泊補助あり）

人数制限：未定

その他：詳しくは別紙を参照。

ローカル・プロジェクト実習 C（千葉市・いすみ市コース）

テーマ：ちば共創都市圏「ポスト MICE ツアーを造成」

担当：阿部 厚司（千葉大学国際未来教育基幹特任講師）

時期：第2～4ターム 集中（現地での宿泊体験あり）その後ツアー実施(日程未定)

6月8日に第1回授業（またはガイダンス）

人数制限：5名程度

その他：詳しくは別紙を参照。また、別途ガイダンスを実施（Moodleにて通知）

ローカル・プロジェクト実習 D（長柄町コース）

テーマ：地域ブランド産品をデザインする

担当：田島 翔太（千葉大学大学院工学研究院特任助教）

時期：第1～3ターム 集中。その後、継続可能性あり（継続は任意）

人数制限：4名程度

その他：詳しくは別紙を参照。また、別途ガイダンスを実施（Moodleにて通知）

<その他>

- 集中の科目が履修上限の対象外になるかは各学部によって異なるので、所属する学部の学務でそれぞれ確認すること。
- プロジェクトの詳細ガイダンスを聞いてから履修の有無を判断しても良いが、プロジェクト開始後の履修取り消しは原則として認めない。
- 参加人数が少ない場合は開講を見送る場合がある。
- 今後、以下の地域でのコースが追加される可能性がある。追加された場合は、Moodle に登録した全員に通知する。
 - 西千葉駅周辺
 - 大多喜町周辺

普遍教育科目「ローカル・プロジェクト実習A」サテキャンコース

サテキャンに「もの・ひと・こと」50年史資料館をつくる

担当教員: 鈴木雅之(国際教養学部准教授)

1. 目的

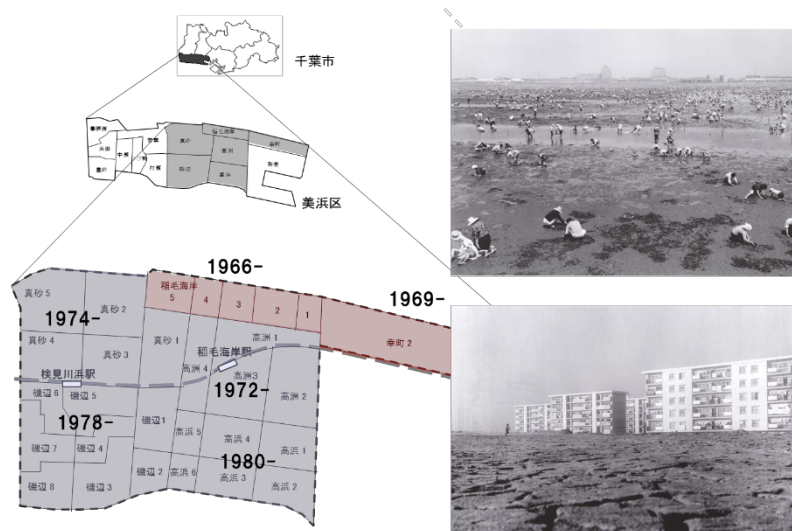
千葉大学サテライトキャンパス美浜（サテキャン）のある千葉市美浜区海浜ニュータウン（人口11万人）は開発後50年を迎える。

この授業では、海浜ニュータウンの暮らし・生活に関する歴史資料を収集し、サテキャンにアーカイブ拠点をつくることを目的とする。ただ単に収集し郷土資料館的なアーカイブ拠点ではなく、その収集プロセスから展示、その先（未来のまち）までが連続するものであることを目指す。

具体的には、ニュータウン内の関係者・団体等によるもの（生活遺産、パンフレット、写真、書籍等）、ひと（キーパーソンへの取材）、こと（オーラルヒストリー、写真等）等が収集物の例としてあるが、収集の目的から始まり、内容、手法、公開方法までを企画・計画し、実践する。

なお、2020年に「海浜ニュータウン半世紀展」を開催する計画があり、それに向けてのプレ準備企画の位置づけでもある。

この授業での企画、実践することを通じてニュータウンの課題、歴史資料のアーカイブのあり方、企画方法、実践（マネジメント、広報）、モニタリングの方法などについて学ぶ。そして、今後私達が地域の活性化を担うためにはどのようなことが大事なのか、何ができるのかを具体的に掘り下げ、さらに何を学ぶべきかを知る。



2. 授業の内容

(1) 企画

アーカイブ拠点形成の企画をつくる。企画内容は以下の通り。

- ・アーカイブ拠点形成の目的、コンセプト
- ・収集の対象（テーマ、対象物等）
- ・収集の方法（ワークショップ、聞き取り・・・等）
- ・収集の内容
- ・資料の管理、加工、保管方法
- ・アーカイブ拠点のあり方、つくり方
- ・公開の方法
- ・収集・拠点形成、公開のスケジュール
- ・役割分担
- ・広報方法 など

(2)実践

- ・資料の収集
- ・資料の管理、加工、保管
- ・アーカイブ拠点づくり
- ・公開 など

3. 主なスケジュール

- ①ガイダンス moodle にて連絡
- ②その後の開講日は、受講者の日程調整によって決めます。

4. 開講場所

主な開講はサテキャンで実施

必要に応じて西千葉キャンパス コミュニティ・イノベーションオフィスで実施

5. 時間数

一人あたり 50 時間

6. 成果物

- ①アーカイブ拠点形成企画書
- ②アーカイブ拠点公開物
- ③最終レポート（振り返り）

7. 授業を通して学べること・得られるスキル等

- ①地域の課題を知り、地域活性化のために必要な取り組みを説明できる。
- ②地域の活性化のために必要なプロジェクトを組み立てることができる。
- ③歴史資料のアーカイブ可の意義やあり方を知り、提案ができる。
- ④今後の地域づくり、地域活性化において必要なこと、自らができることを考察できる。
- ⑤協働によるコミュニケーションスキル、問題発見・問題解決の能力、プレゼンテーションのスキル、創造的な思考力を身につける。

8. 履修登録方法

本日のガイダンスの通り

9. その他

受講者が3名未満の場合、本年度は開講しません。

国立大学法人千葉大学 × 株式会社大功

サンプスギを活用した地産地消の家づくり

共同研究 報告書



2018年 8月 31日

背景と目的

千葉県内の里山再生と経済循環のために、 サンプスギをはじめとした地域産材の活用を推進しなければなりません

- ・日本は人口減少時代を迎え、林業や建設業など、住宅建設に関わる地域密着型の産業は大きな転換期を迎えています。
- ・国内の森林資源は安価な外国産材に太刀打ちできず、担い手不足や高齢化と相まって、衰退が続いています。
- ・千葉県内にはサンプスギという地域産材がありますが、上記の問題や疫病被害などによって十分な活用がなされていません。里山保全の面でも、こうした県産材の活用・流通のための新しい方策が求められています。
- ・地域の事業所が元気になることは、地域活性化の視点においても重要です。県内材の活用を促すことができれば、森林資源の循環と地域経済の循環の両面から地域活性化に貢献することができます。
- ・よって本研究は、**サンプスギを活用した地産地消の住宅を産学連携で開発し、地域産材の価値を広く社会に伝えること**を目的としています。



研究計画

学生とともに先行事例調査やヒアリング調査を実施し、地域産材の特徴や課題、 木材の効果の把握をおこない、地産地消の家づくりのコンセプトづくりに取り組みました

フェーズ1: サンプスギの特徴と課題の整理

- ・日本や千葉県の林業の抱える問題の把握(ウェブ、広報物、出版物等)
- ・本研究に関連する先行事例調査(論文、出版物等)
- ・県内関連機関へのヒアリング(木材組合、山武市、研究者、民間事業者等)

フェーズ2: 木材の効果の把握とモデル住宅の木質化の検討

- ・木材利用の効果に関する先行研究調査(林野庁、森林研究センター等)
- ・研究者へのヒアリング(千葉大学園芸学部)
- ・内装木質化の検証(CGによる検証)

フェーズ3: 地産地消の家づくりのコンセプトとブランドメッセージの立案

- ・ブランディングの定義(文献等)
- ・ターゲット層の嗜好の把握(出版物等)
- ・コンセプトとブランディングの検討



研究成果① サンプスギの特徴と課題の整理

強度があり、赤みの強いサンプスギは建築材に適している一方、 非赤枯性溝腐病が蔓延し、安定的な供給が難しいという課題を抱えています。

サンプスギの特徴

- 1 一般的なスギよりも**硬く、長持ちする住宅をつくるのに適しています**。クローン挿し木のため、育つ速度が同じで、まっすぐ育ち、均質な大きさとなります。
- 2 一般的なスギよりも油気が多く、艶や木肌の色が良く、**赤みが強い**特徴があります。
- 3 花粉を飛ばす雄花をほとんどつけないため、**花粉の少ない**優良品種の一つとなっています。

サンプスギの課題

- 1 木材の腐朽菌による病害である**杉非赤枯性溝腐病が蔓延**しています。腐朽したサンプスギの材価は著しく低下し、再利用の方策も少ないです。
- 2 地域産材としての**ブランド力が弱い**です。例えば、カタカナの「サンプスギ」は山武地方において古くから育てられてきた挿し木を指す一方、漢字の「山武杉」は主に山武地方に生息するスギ全体を指しており、混乱を招いています。
- 3 材料の**安定的な確保が難しい**材料です。溝腐病による被害や需要の少なさから、流通する良質なサンプスギは限定的となり、需要に合わせた柔軟な仕入れが困難となっています。

このようなことから、**サンプスギは住宅材に適しているものの、社会的な課題から活用方法が見いだせず**にいます。その結果、里山の荒廃や林業の衰退に繋がり、流通する材料が減り、活用機会が失われるという悪循環に陥っていると考えられます。



研究成果② 木材の効果の把握とモデル住宅の木質化の検討

木材を使うことによる環境的・生理的な効果は
これまで多くの研究がなされており、一般的に認められています

- 1 木材を利用する住宅は**健康に良い**と考えられています。木材を使った住宅はストレスが少なく、リラックス効果を高めることがわかっています。より良い睡眠や生産性が向上し、日々の生活を豊かにすると考えられています。
- 2 木材の利用は、**住宅の性能を向上**させることができます。防湿性や断熱性の向上により、より快適に過ごせます。
- 3 木材を利用することは、**地球環境に貢献**することでもあります。木材は再利用ができ、再生産が可能な地球に優しい材料です。木材を積極的に利用することで、温暖化防止に貢献し、持続可能な森林資源を守ることができます。



プロジェクトチームが開発したモデル住宅をCGで検証



研究成果③ 地産地消の家づくりのコンセプトとブランドメッセージの立案

学生と地産地消の家づくりを考えるワークショップを実施し、
コンセプトの立案とブランディングの検討をおこないました

地産地消の家づくりとはなにか

- ・ 人と同じように成長し**経年劣化**することこそが自然の家づくりの本質ではないか
- ・ できあがった家の結果ではなく、**経過を楽しむ**ことも大事にするべきではないか
- ・ 木は、歴史的にも人と強い絆がある**親和性の高い材料**であることを再認識しなければならない
- ・ 木は、過去、現在、未来をつなぐ存在であり、**時間の流れによる変化**そのものが付加価値となるのではないか

プロジェクトチームの強み

- 1 木材にこだわる**材木店**がつくる家
- 2 **宮大工**の技術と伝統に裏付けされた手づくりの家
- 3 地産地消の推進と地域活性化のための**産学連携**

ターゲットとなる顧客が求めているもの

- 1 **自分らしさ**を表現できる家
- 2 何をつくるのではなく、**どうつくるか**を楽しめる家
- 3 モノとしての家ではなく思い出となる**コト**を育める家

コンセプト

- 1 **「伝統構法の木造平屋」**「宮大工がつくる平屋」
 - ・ 工業製品ではない手づくりの家
 - ・ 宮大工がつくる永く住める家
 - ・ 折置組による頑丈な家
- 2 **「地域産材サンプスギ」**「厳選された自然素材」
 - ・ 気候・風土に合った材料でつくられた家
 - ・ 経年変化を楽しむ家
 - ・ 木材を知り尽くしたプロがつくる家
- 3 **「安全・安心・快適」**「永く住める家」
 - ・ 無垢材による安全で健康な家
 - ・ バリアフリーで将来も安心な家
 - ・ 省エネ(ZEH)、高断熱の快適な家

ブランドメッセージ

「愉くらしの家」

木材への想い、伝統構法への想い、暮らし方への想いを表現する、手づくり感の溢れるネーミングとして女性メンバーの案を採用あえて木材や伝統といった言葉を避け、暮らしにフォーカスしたネーミング

学生と一緒に視察や議論を重ね、地産地消の家づくりのコンセプトやブランディングを検討しました



今後の展望

サンプスギをはじめとした地域産材の認知度の向上に努め、
産学連携による地産地消の家づくりのモデルを確立させることで、持続可能な社会の実現に貢献します

- 1 地域産材のさらなるブランディングの向上を図ります。
地域産材を身近に感じられる商品や体験プログラムを
考案します。
- 2 県内外でのイベントやコンテストに出展し、地産地消の
家づくりの重要性を社会に発信していきます。
- 3 SDGsの実現に向けた持続可能な社会モデルの提案を
おこないます。地域活性化と一体となった森林資源の活用
と保全は世界的な課題です。地産地消の家づくりをモデル
化し、SDGsの目指す世界の課題解決に貢献します。
SDGs(持続可能な開発目標)とは、2030年までに世界が抱える
問題を解決し、持続可能な社会をつくるための国際目標です。



共同研究推進体制

材木店、宮大工、建築家、PR会社、大学がプロジェクトチームを結成し、約1年をかけて検討を重ねました



共同研究実施者

株式会社大功
千葉大学コミュニティ・イノベーションオフィス

共同研究担当者

工学研究院特任助教 田島翔太

実施期間

2018年2月1日～8月31日

実施場所

株式会社大功本社
千葉大学西千葉キャンパス

プロジェクトチーム

株式会社大功 中村寧、中村昇
株式会社工匠 稲垣和樹
アトリエS.O.C 一級建築士事務所 根来直生
坂田克己
株式会社FCコミュニケーションズ 竹口享介
ジャパン建材株式会社 齊藤明、音羽翔
株式会社ちばぎん総合研究所 内海浩司、遠藤剛
千葉大学学生チーム 菊地むつみ、呉ショウイ、飯塚大智、小澤彩花
パンフレットデザイン／自由区域 (<http://liberty-area.com/>)

参考文献

林野庁、千葉県農林水産部、千葉県木材市場協同組合、山武市役所経済環境部、
青沼和夫(1993)『再考 山武林業』グリーン企画



研究担当者プロフィール

田島翔太。1984年生まれ。千葉大学工学研究院特任助教。株式会社ミライノラボ
代表取締役CEOおよび長柄町タウンアドバイザーを兼務。
ゼロ・エネルギー住宅の世界大会「ソーラー・デカスロン」の日本代表リーダーとして、
スペインとフランスでモデル住宅を出展。国内では地方創生のプロフェッショナルとして
千葉県内の地域活性化に取り組み、自治体や地元事業者とともに観光や健康をテーマ
にした持続可能なまちづくりのコーディネートをおこなっています。



世界遺産のまちから学ぶ 2019

～佐原の大祭と観光のまちづくり（千葉県香取市）～

<第一弾>

教養展開科目：地域産業イノベーション学

「世界遺産のまちから学ぶ」

第2ターム 水曜 2限

2016年にユネスコ世界遺産に登録された「佐原の大祭」とそれを基軸とした「観光のまちづくり」を学びます。江戸時代から続く伝統的な祭り、利根川を通じて栄えた商人の文化、伊能忠敬らによって導かれてきた自治の精神など、いま注目される佐原がどのように発展しているのか、その真相を探ります。

本講義は、まちづくりについての基本的な考え方を学ぶとともに、佐原のまちづくりを牽引してきたキーパーソンに登壇頂いて、これまでの経緯や創意工夫など現場の貴重な話をうかがいます。佐原のまちづくりを学ぶ貴重な機会となりますので、ぜひ受講してみてください！



<第二弾>

ローカルプロジェクト実習C 「佐原のまちづくりを体験する」

第3ターム 集中（8月中旬に2～3日間で実施予定・宿泊補助あり）

この実習では、佐原のまちづくりを体験します。観光のまちづくりを実践している地元の方々へのヒアリング、まちづくり活動の体験、佐原に実習に来ている他大学の学生との交流などを予定しています。佐原のまちづくりがなぜ成功しているのか、これらの実習から少しでも体感してもらえればと思います。

本実習の詳細については、後日、改めてアナウンスします。

担当者： 関谷 昇（千葉大学大学院社会科学研究院教授）
noboru@faculty.chiba-u.jp

普遍教育科目「ローカル・プロジェクト実習 C」

「ちば共創都市圏 ポスト MICE ツアー造成」

(担当教員：国際未来教育基幹 特任講師 阿部 厚司 / 国際教養学部 准教授 鈴木 雅之)

1. 背景と目的 「COC と COC+ / 都市圏と地方圏の連携/ インバウンド (MICE) 誘致」

千葉大学では千葉県内の「都市圏」の活性化を目指す「COC 事業」と「地方圏」の産業振興・若者定着を目指す「COC+(プラス)事業」の2つのプロジェクトを関係機関等とも連携しながら学生による地域課題の解決の手順を学ぶ教育プログラムを実施している。

今回は大学近隣の千葉市役所とちば国際コンベンションビューロー、さらには COC+のローカルハブのあるいすみ市役所から「観光施策」「MICE」などについての説明を受け、さらには演習やフィールドワークを通してニューツーリズムについても学び、下記のようなインバウンドツアーをチームとなって考案し、最終的にはツアーの募集や当日のアテンドなどの実務も経験、都市圏と地方圏の連携による事業を学ぶことを目的とする。

(参考) ちば国際コンベンションビューローと千葉市は2019年3月に幕張メッセで行われた食の見本市「FOODEX JAPAN」への海外出展者を対象に、イベント終了翌日に県内の魅力ある観光地でもある南房総市を訪問するエクスカーションを企画・開催し、千葉のローカルエリアの魅力を伝えるとともに、「ポスト MICE ツアー」の充実した MICE 開催地としての付加価値アップと知名度アップを図る取り組みを行った。

2. 関係機関等の活動について

千葉大学⇒「COC 事業」と「COC+(プラス)事業」の連携による県全体の活性化を目指す。

千葉市⇒「ちば共創都市圏」の理念のもと、周辺都市の様々な資源とも結びつけた魅力的なライフスタイル・新たな価値観を「共」に「創」りあげることを目指す。

いすみ市⇒「域学連携事業」として地域課題の解決に千葉大の学生とも共に取り組んでいる。

ちば国際コンベンションビューロー⇒千葉県への MICE の誘致・支援に取り組んでいる。

3. 課題 「プロジェクトの構想と実践」

「ちば共創都市圏構想」及び各機関の施策等を理解したうえで、幕張メッセで開催された展示会における海外出展者が関心を持つような、いすみ市内の主要スポットを巡る「ポスト MICE ツアー」を企画し、ツアーへの誘致や当日のアテンドなどを経験して、千葉県の「都市圏」と「地方圏」の資源を結びつけた事業を関係各機関等との調整や協力をとおして学ぶ。

4. スケジュールと開講場所 (予定：変更の可能性あり)

①ガイダンス @総合校舎 G4-54 4月23～25日 12:10～12:40 後日別途ガイダンスあり

②演習 1回目 @千葉大学サテライトキャンパス美浜(千葉市美浜区) 6月8日(土)10:00～16:00
(プロジェクトの概要説明や今後の進め方、各機関からの説明も予定)

2回目以降は今後検討、その他いすみ宿泊演習予定 6月～11月(随時)

③発表 千葉市インバウンド・ツーリズム推進協議会(12月)、いすみ市域学連携成果報告会(2月)、MICE DAY(MICEの紹介イベント 2月)等において予定 (時期・場所等は未定)

④実践 最終的にツアーへの誘致、及び当日のアテンドを経験 (日程等詳細は今後決定)
(いすみ市への旅費・滞在費等は学生負担無しの予定)

5. 時間数と成果物

一人あたり 50 時間目安

① ツアー企画書（パワポ） ② ツアー当日アテンド ③ 最終レポート

6. 授業を通して学べること・得られるスキル等

① 関係機関のそれぞれのニーズを把握するとともに、その背景や地域資源などを理解したうえで、共創・連携に繋がること。

② コミュニケーションスキル、問題発見・問題解決の能力、自分で考えをまとめて相手に伝える力、プレゼンテーションスキル、創造的な思考力など。

③ 自治体や観光産業における観光施策やファムトリップの立案などの体験。

7. 履修方法

希望者は、氏名、学部・学科、学年、学籍番号、連絡先（千葉大のメールアドレス）を明記のうえで Moodle か以下の担当教員までメールで申し込みください。5 月 31 日（木） 17 時まで
国際未来教育基幹 特任講師 阿部 厚司 宛 abeatusi1969@chiba-u.jp

8. その他

履修にあたり、ポータルでの登録は行わないでください。終了後に教員が成績登録します。
成績は「合否」のみの判定となります。

（用語解説と参考データ）

「ニューツーリズム」

地域固有の資源を新たに活用した体験型・交流型の要素を取り入れた旅行形態で着地型観光とも言われる。（主な例）エコツーリズム、アグリツーリズム、ヘルスツーリズム、ヘリテージツーリズム、コンテンツツーリズム、スポーツツーリズム

「MICE」

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市/イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことで、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

一般的な観光とは異なり、企業・産業活動や研究・学会活動等と関連している場合が多く、観光振興という文脈でのみ捉えるのではなく、「人が集まる」という直接的な効果はもちろん、人の集積や交流から派生する付加価値や大局的な意義についての認識を高める必要がある。

千葉市 HP 魅力・観光

<http://www.city.chiba.jp/ichioshi/index.html>

千葉市 HP 千葉市における地方創生の取組み

<http://www.city.chiba.jp/sogoseisaku/sogoseisaku/kikaku/270527tihausousei.html>

観光庁 HP MICE の誘致・開催の推進

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kokusai/mice.html>

ちば国際コンベンションビューローHP

<https://www.ccb.or.jp/>

いすみ市観光協会

<http://www.isumi-kankou.com/>